



としょかん大人塾第6回『落語を知って楽しもう』

開催日：3月6日（日）14：00～

講師：^{あいしていたむれ}愛志亭多夢礼さん（大牟田市立図書館 館長 中野日出男さん）

参加者：68名



平成27年4月から取り組んできたとしょかん大人塾も、いよいよ今回で最終回。最後は笑って締めたいという思いから落語講座を企画しました。受講希望者が多かったため、思い切って会場を図書館から文化会館へと移し、定員100名で開講することに。当日は天気予報に反してうららかなお天気となり、大勢の方にご来場いただき何よりでした。

さてさて、今日の講師は南筑後でご活躍中の愛志亭多夢礼さん。その正体は、大牟田市立図書館の館長さんでいらっしゃいます。館長中野さんは埼玉県のご出身で、大学生時代に『日本テレビ全日本学生落語名人位決定戦』で4位（1位は春風亭昇太さん）を獲得されたり、学生落語家として数々のテレビ番組に某有名人と共演されたりと、かなりの実力派なのです。近年はボランティア活動として、サロンや市が主催する催しなどでご活躍中とのこと。

開講の冒頭、さっそく1席『浮世床』

髪結床で、若い衆が集まって馬鹿話。講談本を読みふけている留さんに、読んで聞かせると声が掛かる。留さん、本当はカナもろくに読めないから……。向こうでは将棋が始まる。一人が、王さまがないと騒ぎだし、よく見ると相手の王さまもない？

※昔の床屋は町内の若い衆の寄合の場所であり、一日中若い者が無駄話をしていた。そんな当時の様子もうかがえる、小噺を集めたオムニバス落語です。

幕間は、豆知識のコーナー

- 開場時に鳴る一番太鼓は、よく聞くと「ドンドンドントコイ、金持ってどんと来い！」と鳴っている
- 小道具の独特な呼び方 扇子→風、手ぬぐい→曼荼羅、羽織→ダルマ

• 1987年に起きた落語協会分裂騒動について

などなど、初級の知識から裏話までをお話いただきました。

2席目は『金明竹』

おじの骨董屋で世話になっている与太郎は、少々頭に霞がかかっているのが悩みのタネ。今日も店番をさせれば、軒先で雨宿りをする見知らぬ男に、新品の蛇の目傘を渡してしまう。上手い断り口上を教えれば、それを猫を借りに来た隣人に「猫は使い物になりませんから焚き付けに…」とやる。猫の断り方を教えれば、今度はおじさんと呼ばれて来た客に「家にもだんなが一匹いましたが、さかりがついて…」とこんな調子。さて、おじさんの留守に加賀屋佐吉から使いが来て、早口の関西弁に符丁を混えてまくし立てるので、与太郎も奥さんもさっぱりわからない。さあ、おじさんにちゃんと要件は伝わるのか？

※『寿限無』と同様、難解な長ゼリフを噺家がスラスラと言いつてるところが見所のひとつです。

楽しい時間はあっという間でした。最後は質問タイム。

- Q1. 落語の登場人物は、違う話に同じ名前の人が出てくるが、どうして？
- A 人のいいのが甚兵衛さん、馬鹿な与太郎というように、ある程度キャラクターの性格は決まっています。つまり、登場人物である程度、話のズジがわかるようになっているのです。
- Q2. 先生の出囃子は『スーダラ節』だったが、理由はある？
- A 出囃子は出演者によって決まっています。名前にちなんで選んでもらった。愛志亭多夢礼→クレイジーキャッツ谷啓の曲『愛してタムシ』→クレイジーキャッツ植木等の曲『スーダラ節』

もっといろいろお聞きしたかったけれど、ここでお開き。初めて落語を生で鑑賞したという方も多かったようで、「久しぶりによく笑った」「もう一度聞きたい」などの感想をいただきました。これを機会に、図書館の落語本やCDの利用が増えますように！！

